

団体名	横須賀市医師会	うわまち病院	よこすか訪問看護ステーション	地域医療推進課
課題区分	各分野毎の取組み（資源不足への対策）	各分野毎の取組み（資源不足への対策）	各分野間の役割共有（ネットワーク・サポート体制構築）	各分野毎の取組み（資源不足への対策）
課題詳細	小児への訪問診療が浸透していない 小児等在宅医療（医療的ケア児含む）に関する情報の少なさ	医療デバイスの量差や当事者の三次病院への依存	支援者同士の分野を超えた横の繋がり不足	小児にへの訪問診療が浸透していない 障害に理解のある小児科医の不足
（1）番号・内容	取組番号：7，8 在宅医⇄病院小児科医の相談体制構築に向けて必要な取組みの検討を進める 順次研修へ参加・委員会で検討	取組番号：9 新たに対象児が発生した際の連携強化に努め、円滑な退院を目指す	取組番号：2，4 「横須賀地域小児等在宅医療連絡会議」の継続した開催 引き続きケース会等の実施により新たに対象児が発生した際の連携強化に努める	取組番号：10 医療的ケア児に関する研修の実施に向けて予算やスキームを検討する
（2）令和元年度の進捗状況について、実績や検討している内容	11/14, 2/6に小児在宅医療検討会を開催 医師会員にアンケート実施 小児在宅歯科の参加	・退院前カンファレンスの開催（訪問診療、訪問看護ステーション、保健師、児童相談所など関係機関の召集） ・院内外泊→外出→外泊 と家族指導の進捗を振り返り、評価をしながら自宅退院につないでいる。	① 外出時における連携（病院から自宅へ） ② 保育園入園時の連携	特になし
（3）取組みを進める中で見えてきた課題	現在、小児在宅医療を行ってる医師は全て小児科医以外となっている。 市外の医療機関（病院）との連携不足	院内外泊では病院の設備上、自宅を想定した独立性を再現することが難しく、具体的なイメージがつかみにくく、親の不安感がなくなるわけではない。	① 自宅での環境を多職種で確認できたことで今後サポートするうえで安心感につながる。事前の準備ができることで、ゆとりができる。 新たな課題も見えやすい。 ② 役割分担ができることで、保護者の負担が軽減。役割の現状が見えやすい。	行政として小児在宅の取組み方針が明確になっていない。 健康部地域医療推進課では、高齢者を対象とした地域包括ケアシステムの推進（在宅医療介護連携推進事業）に取り組んでおり、小児等在宅医療に関する事業等は実施していないが、多職種連携のための研修会等を実施しているので、小児在宅に関する研修を実施するにあたっては、参考事例になると思われる。
（4）課題に対する考えうる解決策または関係機関と話し合いたいこと（括弧書き：協力を得たい関係機関）	3次医療機関—うわまち病院—開業医の連携を徹底する。 3次医療機関への出前講座、訪問診療の同行などを行う。	・（県）の主導で三次機関の医師に対する講習を開催、相互の連携と知識習得を深める。 ・自宅に近い環境下で医療ケアの練習ができるよう、（市）による外泊施設を検討願いたい。	① 医療機関・機器業者・育児支援サポート ② 保健所・保育園	行政としての小児在宅への取組み方針を明確化 行政が中心となり、資源の把握、課題の抽出、情報共有の支援等の連携をするための仕組みづくりが必要（医師会）

令和元年度第2回横須賀地域小児等在宅医療連絡会議 取組状況一覧

団体名	こども健康課	海風会		みなと舎
課題区分	各分野毎の取組み（資源不足への対策）	各分野間の役割共有（ネットワーク・サポート体制構築）	中核機関・コーディネート役の設置	中核機関・コーディネート役の設置
課題詳細	支援者同士の分野を超えた横のつながりの不足 ライフステージ切り替わり時の繋ぎ・連携	支援者同士の分野を超えた横の繋がりの不足	決まった調整役がおらず、また個別性も高いため、情報集約や事例積み重ねが困難	決まった調整役がおらず、また個別性も高いため、情報集約や事例積み重ねが困難
（1）番号・内容	取組番号：13、14 相談体制充実のため、関係機関との連携強化に努める 退院調整への積極的な関与 幼児期のコーディネート機能を担う	取組番号：3 連絡会議や検討会の実施に向け関係機関と検討	取組番号：1 中核となる機関・コーディネート役を担う存在の設置について検討を進める	取組番号：1 中核となる機関・コーディネート役を担う存在の設置について検討を進める
（2）令和元年度の進捗状況について、実績や検討している内容	14) については、前回課題のとおり関係機関の連携体制できつつあり、周産期・乳幼児期の連携支援の体制はある。 また13) についても、患者の状況に合わせ医ケア児連携体制の連携のなかった関係機関とも調整をし、つながりを作る努力を少しづつであるが積み重ねている。	横須賀市障害とくらしの支援協議会の「こども支援連絡会」や「移動支援のあり方検討プロジェクト」等で、課題として取り上げられるが、具体的な進展には結びつかず。	特に検討が進んだ様子は感じられない。 課題として継続するべきと感じる。	・神奈川県医療的ケア児等支援者養成研修修了者 5名配置 ・神奈川県医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者 1名配置 ・在宅重症心身障害児者療育指導事業(横須賀市児童相談所からの委託事業) 訪問者4名
（3）取組みを進める中で見えてきた課題	就園や保育園利用など、今まで連携体制のなかった関係機関も、少しずつであるが医ケア児の支援体制に参画し始めている。 このような新たなつながりを大切に支援体制につないでいきたい。	—	—	コーディネーターの役割や動きについての明確な内容が示されていないので、具体的取り組みは、今後の課題。
（4）課題に対する考えうる解決策または関係機関と話し合いたいこと （括弧書き：協力を得たい関係機関）	【市医師会】【訪問看護ステーション】 今まで、就園や医ケア児を抱えた両親の共働きなど実現しにくかった分野でも、参画する保育園等が出てきている。 入園時のケア内容の申し送りや緊急時の連携体制など、保護者が安心して利用できる体制づくりには、不可欠な機関であると感じている。	—	—	コーディネーターの位置付けについて。

令和元年度第2回横須賀地域小児等在宅医療連絡会議 取組状況一覧

団体名	横須賀市児童相談所	横須賀市療育相談センター	障害福祉課	
課題区分	各分野毎の取組み（資源不足への対策） その他	各分野毎の取組み（資源不足への対策） その他	各分野毎の取組み（資源不足への対策） その他	その他
課題詳細	支援者同士の分野を超えたつながりの不足 チームケアの体制が取れていない	一時預かり場所の不足	移動支援（福祉サービス）が利用できない	災害対策
（1）番号・内容	取組番号：13 相談体制充実のため、関係機関との連携強化に努める	取組番号：11 放課後等デイサービス勉強会の実施に向けて検討を進める	取組番号：15 移動支援の充実実現に向け検討を行う	取組番号：25 非常用自家発電機等の購入経費補助について検討
（2）令和元年度の進捗状況について、実績や検討している内容	新たな取り組みはありません。必要時、連携の強化を継続していきます。	・通所事業所連絡会第2回勉強会を2月26日に開催予定。 第1回に引き続き、医療的ケア児や肢体不自由児を受け入れている2事業所が、受け入れ状況、準備、活動の内容、今後の課題等を発表、共有する予定。	移動支援に関しては、移動支援調整会議で検討しているが、本市では原則、通学に関する移動支援を認めていない。通学での移動支援の利用や医療ケア加算については、他市の状況を参考に検討していく。	日常生活用具に非常時電源確保のための設備・機器等の追加について検討したが、予算化を見送ることになった。
（3）取組みを進める中で見えてきた課題	医療的ケア児の家族支援として、きょうだい児童の一時保護が必要になる場合が予測される。	・積極的に受け入れようという事業所が増えるか分からない。 ・学校から事業所まで、事業所から自宅までの送迎がないと利用につながらない。	移動支援事業所が増える見込みがなく、新規の利用者を受け入れる余裕がない。 医療ケアを行う看護師の確保が困難である。 移動支援で車を利用した場合の車賃等は、全額が利用者負担となる。 通学援助は、福祉か教育か、はっきりしていない。	・日常生活用具の対象者は、児童だけでなく、年齢に関係なく障害者全員になる。 ・対象者の人数等を把握ができていない。 ・発電機は危険であり、個人での管理が難しい。発電時間が短い。
（4）課題に対する考えうる解決策または関係機関と話し合いたいこと（括弧書き：協力を得たい関係機関）	●解決策 一時保護扱いとなりますが、きょうだいの状態により、医療機関への一時保護もお願いすることが考えられます。 ●協力を得たい団体 必要時、近隣の医療機関への委託	・事業所連絡会として事業所間の見学会なども次年度検討したい。 ・学校から事業所まで、事業所から自宅までの送迎を事業所がもっている、また医ケアが必要な子はNsも同乗していると利用しやすい。	東京都は平成30年度より看護師を同乗させた専用通学車両の運用を開始している。 大阪府は令和2年度より、看護師を同乗させた介護タクシーによる通学支援を送迎手段がないと通学できない全生徒に対して、開始する予定である。 神奈川県は、政令市・中核市を除いた市町村に対して通学支援事業（月4日まで上限）を今年度より開始したが、横須賀市は中核市のため、利用できない。 神奈川県でも、東京都や大阪府のような制度ができないか。 移動支援の医療ケア加算を実施するとしたら、訪問看護事業所等の協力が必要である。	・医療保険より給付されている人工呼吸器等に関する非常用電源（発電機ではなく予備バッテリー等）を医療保険の対象にする。 ・日常生活用具の基準額をオーバーすると思われるが、充電式の喀痰吸引器等を購入する。※基準額の1割と基準額を超えた額の合計が自己負担額となる。 ・災害時に安定した電源を確保するには、PHVや電気自動車が有効であるため、医療的ケアが必要な家族がいる世帯への、これらの自動車購入に対する補助金の増額等が考えられる。

令和元年度第2回横須賀地域小児等在宅医療連絡会議 取組状況一覧

団体名	教育委員会支援教育課	横須賀市立養護学校	神奈川県総合療育相談センター	
課題区分	各分野毎の取組み（資源不足への対策） その他	各分野間の役割共有（ネットワーク・サポート体制構築）、各 分野毎の取組み（資源不足への対策）、その他	各分野間の役割共有（ネットワーク・サ ポート体制構築）	各分野毎の取組み（資源不足への対策）
課題詳細	移動支援（福祉サービス）が利用できない 教育の場における看護師確保が困難 医療的ケア児等のスクールバス利用可否の検討	情報共有の場の設置、看護師確保に向けた取組み、医療的ケア 児等のスクールバス利用可否の検討	支援者同士の分野を超えた横の繋がり之不 足	人材育成研修の不足 一時預かり場所の不足
（1）番号・内容	取組番号：16，17，26 移動支援の充実実現に向け検討を行う 広報・普及啓発により勤務体系への理解を深めても らい、看護師確保に努める 医療的ケア児等のスクールバス利用について検討 し、本会において状況の報告を行う	取組番号：4，17，26 引き続きケース会等の実施により新たに対象児が発生した際の 連携強化に努める 学校における看護師の役割等について理解を深め、看護師の確 保に努める 医療的ケア児等のスクールバス利用について検討し、本会にお いて状況の報告を行う	取組番号：5 引き続きケース会等の実施により新たに対 象児が発生した際の連携強化に努める	取組番号：20，22 現状の取組みを継続・強化する
（2）令和元年度の 進捗状況について、 実績や検討している 内容	○看護師に関わる項目は、国や県の動向を注視しな がら、市教育委員会として今後どのような形で配置 していくか検討している。 ○スクールバスについては現行のスクールタクシー の運用を工夫したり、スクールバスの入れ替えのタイ ミングで次のステップに行けるよう準備を進めたり している。	【情報共有の場の設置】 訪問看護の記録が月ごとに送付されてくるものを、看護師や担 任と共有し学校生活に活かしている。 【教育の場における看護師確保が困難】 看護師募集は必要に応じ教職員課がハローワーク等に情報を提 供している。 【スクールバス利用の可否】 スクールバスでの医療的ケアを安全に行うことを検討し、登下 校のスクールバスでの医療的ケア児童生徒の乗車は難しいこと を検討した。今後はスクールタクシーや福祉車両の方向性で市 教委と検討を進める。	ケース数は少ないが、必要に応じて、利用 者の了解のもと、関係機関への情報提供を行 っている。	20について（令和元年度） ・心身障害児療育普及専門研修（参加者 計64 名） テーマ「脳性麻ひ児の運動障害の見方」他 ・早期療育普及研修（参加者：48名） テーマ「多職種連携・協働の必要性」他 22について（平成30年度） ・医療型短期入所事業として、診療所の空床を利用 した重症心身障害児者や肢体不自由児等を対象 とした事業の実施（延件数；344件、延日数： 1,488日）
（3）取組みを進め る中で見えてきた課 題	○医療的ケアが必要な児童生徒の学校生活の状況に 合わせた看護師の配置 ○関係部署（教育、福祉、財政等）との協議と連携 の構築 ○他市町村の運用方法から、本市の状況に合わせた 看護師の運用方法を構築すること	・市外からの転入のケースの場合、保護者が積極的に動かない と支援を整えることに非常に時間を要する。保護者主体で動け ない場合は、どの機関が中心となるべきなのか。また市外から の転入前に機関同士の連携はどこまでできるのか。 ・スクールタクシーの状況も含め、市内にユニバーサルタク シーがまだ少ない状況である。在宅重心児の場合、保護者の運 転の負担軽減のためにも必要だと考える。	特になし	20について ・参加者の傾向として、児童発達支援等の新たな 事業所が増加している中で、同事業所の職員や保 育園職員の参加が多くなっている。研修内容は、 基礎的な内容となっており、療育に対する基礎知 識を深める必要な研修と認識している。 22について ・令和2年4月より小児科Dr不在となり、一 部、医療的ケア児の利用を制限せざるを得ない現 状がある。
（4）課題に対する 考えうる解決策また は関係機関と話し合 いたいこと （括弧書き：協力を 得たい関係機関）	—	—	—	—

団体名	神奈川県総合リハビリテーション事業団
課題区分	各分野毎の取組み（資源不足への対策）
課題詳細	サービス利用に結び付いていない方に手を差し伸べる ことが困難
(1) 番号・内容	取組番号：23 横須賀地域での福祉用具体験会開催に向けた調整・検 討を行う
(2) 令和元年度の 進捗状況について、 実績や検討している 内容	養護学校福祉用具体験会を2019/8/26(月)10:00-12:30 横須賀市立養護学校（体育館と合同学習室）で実施。 ①移動・移乗支援用具 ②コミュニケーション機器 ③ 生活関連用品 ④クッション・ポジショニング ⑤防災 トイレ関連 ⑥避難用具 ⑦学習用具 ⑧防災キャップ、 の展示を行った。参加者は66名（内：当事者・家族は 20名）であった。
(3) 取組みを進め る中で見えてきた課 題	お子さん・家族・教員や支援者に最新の福祉用具情報 を提供する機会になるとともに、実際にお子さんを中心 としながら福祉機器に触れることで、お子さんの反 応、生活の中での活用方法等の思案や教員や支援者との 情報交換等が出来たようである。学校関係者から は、最新の情報に触れる機会となったので、定期的な 開催の希望もあった。
(4) 課題に対する 考えうる解決策または 関係機関と話し合 いたいこと （括弧書き：協力を 得たい関係機関）	今後開催する機会があれば、幅広い関係機関にご参加 いただければと思う。